

山田町公園、木でアップデート!

私たちが取り組んだ課題 ～六條八幡宮の裏山で伐採された杉を山田町公園で 活用することを検討する～

なぜ、この課題に取り組むのか?

- ★山田町の伝統を残すため
- ★山田町のことを知ってもらうため
- ★自然と触れ合って感性を育む場を作るため
- ★大人から子どもまで使える公園 → 地域の活性化

この課題に取り組む意義?

- ★大学生の若さ、力強さ、柔軟性を活かせる
- ★人と人がつながって地域がつながる
→ 地域の活性化になる
- ★里山の保護・保全にもなる

課題の背景

- ・山田町ってどんなところ?
(自然、歴史文化、人々の暮らし)
★自然が豊か ★歴史が残っている
★人口が少なく人のつながりが濃い
- ・どんな公園が創られようとしているのか
★交流の場 ★人と人がつながれる ★歴史を感じられる
★山田町の外から来る場所 ★里山のイメージを残す
- ・里山が抱えている問題
★伐採した木の活用 ★外来種の駆除 ★里山の木の伐採



調べてわかったこと

山田町公園は街の公園と違う



- ・里山に隣接した場所にあり、もともと棚田だった
- ・計画案でも棚田の地形を活かす検討がされている
- ・山田町の歴史は古く、数々の文化財もあるが公園はない
- ・地元の意見を聞きながら時間をかけて計画づくりが行われた
- ・地域の人たちはいろいろなイベントで公園を活用したい
- ・公園は里山に隣接しているが、間伐など人の手が入らないため荒れており、その保全が課題

六條八幡宮で伐採された木の価値



- ・直径最大約120cmの大木
- ・樹齢最大345年
- ・貞享5年(1688年)に現在の本殿が建立された時に植栽されたものと推定される。
- ・1688年は江戸の元禄時代(生類憐みの令1685年)
- ・樹齢300年以上の木なので木目がつまった固い材(杉の寿命は約500年だが、通常5~60年で伐採)

公園で木を活用する方法はいろいろある

- ・色々な遊具として使う
(ターザンロープ、サスケ、平均台、吊り橋、トンネル、ステップ、ツリー、揺れる遊具・・・)
- ・看板として使う
- ・花壇のプランターとして使う
- ・柵として使う
- ・小屋をつくる
- ・室内の机やテーブルとして使う
- ・屋外のベンチとして使う



地域の人や子供たちが公園に期待していること

- ・公園には広さが必要(広い開放的な場所がほしい)
- ・小さい子は遊ぶ場所、学生は運動できる場所、大人は人と関わる機会を求めている
- ・中学生は友達と遊びたい、小学生は親子で来たい
- ・大人の方はイベントをしてほしい(親は子供に遊ばせたい)
- ・高齢者はゆっくりできる場を求めている
- ・山田町を知ってほしいという思いが強い
- ・シンプルな遊具を求めている
- ・遊具への期待が大きい
- ・長く安心して利用したい



公園に欲しい、木を使った遊具ベスト5

1. ターザンロープ	13
2. 木のトンネル	11
3. 木の平均台	10
4. 丸太吊り橋	10
5. 木のアスレティック	8 (票)



私たちがからの提案

- ①大木の年輪を見せるように輪切りにして活用しよう
→ 展示物、テーブル、看板
- ②木のトンネルを設置しよう
- ③里山の木を使った遊具などを設置しよう



提案を実現させるために

- 提案を実現することで何が期待できるか
- ・山田町内外の人に歴史を知ってもらえる
 - ・山田町にしかないものを作ること、多くの人が訪れ人と人との交流が生まれ地域が活性化する
 - ・木を活用することで里山が良くなる

- 提案を実現するにはどのような課題があるか?
- ・木が腐らないよう、加工や室内に入れるなどの対応が必要
 - ・公園の管理(作成物の維持管理・コスト)が必要
 - ・木だと交換するタイムスパンが短くなる
 - ・利用者の安全性に気を付ける必要がある
 - ・公園の認知をどう広げるか(行ってみたくするような広報)
 - ・開催するイベントの周知方法の検討が必要
 - ・地域の利用者の愛着の醸成をどうするか